

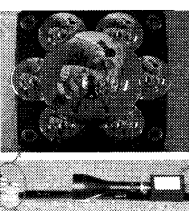
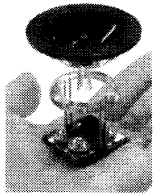
街の安心・安全

次世代広域監視

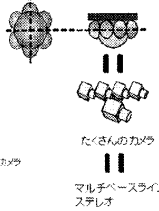
大阪大学産業科学研究所教授 八木康史

しかし、周辺監視の立場か
らすれば、7、8分以内
の状況理解ができればよ
く、その点では、狭い基
線のシステムにおいて
シ、ユーザに利用可能
例えば、大まかな奥行き

防犯グッズ感覚の 携帯監視



複数の映像画像



たくさんのカメラ
マルチベイスライン
ステラ

ユーザ自身が監視カメ
ラを装着することで自ら
を守る技術、それが携帯
監視である。監視カメラ
がユーザと共に存在する
ことで、場所を問わず、
ユーザの希望に合わせた
利用ができる。

用いる監視カメラは複
眼全方位カメラとよぶ。
このカメラは小型であり
ながら、周囲360度の
奥行き計測ができる。写
真は、これまでに試作し
た複眼全方位カメラで、
いずれも、中央に大きな

凸面鏡、周辺部に複数の
小さな凸面鏡を配し、1
台のカメラでそれらに映
し出された周囲360度
の映像を撮影することが
できる。位置の異なる複
数の凸面鏡は、複数のカ
メラを有するマルチベ
イス計測には向かない。し

情報でも、映像内の人や
車等の物体の発見・切り
出しにおいて、頑健な領
域分割を可能にする。
また、侵入監視という
観点から、ユーザへの接
近を早期に発見する技術
処理を加えなくとも、ユ
ーザ中心での常時監視に
より、犯罪防止、犯罪の
早期解決において役立
つ。「撮る」機能は、犯罪
に巻き込まれた場合に、
映像を記録しておくこと
で犯罪証拠を残すことが
できる。また、FOMA
などの「送る」機能を追
加すると、装着者だけで

覚誘導、遠隔操作などに
も有用な技術である。
さて、今回紹介した携
帯監視は、ユーザの常時
監視を可能にする技術で
ある。上記のような知的
処理を加えなくとも、ユ
ーザ中心での常時監視に
より、犯罪防止、犯罪の
早期解決において役立
つ。「撮る」機能は、犯罪
に巻き込まれた場合に、
映像を記録しておくこと
で犯罪証拠を残すことが
できる。また、FOMA
などの「送る」機能を追
加すると、装着者だけで

なく、遠隔からの映
像モニタが可能とな
る。たとえば、この
システムを子供が装
着することで、保護
者は、「いつ」「どこ
で」「だれと」「なに
を」をいつでも映像
から把握することが
できる。これは、G
PS等を利用した位
置情報サービスに映
像という新たな付加
価値を加えることで、ユ
ーザへの安心を提供する
ことに他ならない。これ
らの点からも、センサの
早期実用化により、安全
な社会造りに役立つこと
が十分期待できる。もち
ろん、いつまでもないが
、犯が可能となり、日本の
安全神話復活も夢ではな
い。(おわり)